

**「第6回 あいち生物多様性戦略 2020 推進委員会」、
「第6回 生態系ネットワーク形成検討会」及び
「第5回 あいちミティゲーション検討会」合同会議 議事録**

1 日時

平成 28 年 8 月 16 日(火) 午後 2 時から午後 3 時 45 分まで

2 場所

愛知県自治センター 12 階 会議室 E

3 出席委員

＜あいち生物多様性戦略 2020 推進委員会＞

山本委員長、武田副委員長、涌井副委員長、荒山委員、辻本委員、福田委員、新海委員、井口委員、祖山委員、佐藤委員、柳原委員、近藤委員、荻島委員（代理 石野生産技術環境課長）、岡村委員（代理 山田環境調整官）、酒向委員、菅沼委員（愛知県環境部長）

＜生態系ネットワーク形成検討会＞

夏原委員、長谷川委員、鈴木委員、石田委員

＜あいちミティゲーション検討会＞

田中委員、松本委員

4 議事概要

1. 開会

2. あいさつ

菅沼環境部長、山本委員長から開会のあいさつ。

3. 議事

(1) 「あいち生物多様性戦略 2020」の進捗状況について

【事務局】

(資料 1、参考資料 1 により説明)

【委員】

表の中に、まだ調査が未実施の項目があるが、これは具体的に調査を行う予定はあるのか。

【事務局】

調査については、節目の年に実施していくものになると考えている。毎年調査を実施することが難しいものもある。具体的にすべての予定が決まっている訳ではないが、どこかの段階で必ず調査をするものと理解している。

【委員】

過去2年連続で実施されていないものもあるが、例えば28年度にはすぐに行くなど、計画されているものはあるか。

【事務局】

26番（県民の「生物多様性」という言葉の意味の認識状況）の調査については、28年度に実施したいと考えている。それ以外、例えば11番（都市計画区域及び市街化区域における緑被の減少速度の半減）の場合であるとコンサルでないと実施できない調査であると理解しており、県建設部所管事業でもあることから、状況を把握できていない。おそらく次の計画を策定しなければいけないというタイミングで調査を実施するのではないかと考えている。

【委員】

数値目標に掲げているものについては、いつかわからないけど、調査は必ず実施するという理解で良いか。

【事務局】

そのように承知している。

【委員】

数値目標として掲げている限り、調査を実施していただきたい。

【委員】

4番（緑の基本計画の策定）の公園緑地担当者会議において、緑の基本計画未策定市町村への働きかけは、県環境部が行ったということか。

【事務局】

県建設部が行ったものである。

【委員】

学会でも緑の基本計画において、どのように樹種だとか、緑化だとか、そういった取組を実施することがかなり指摘されているが、これは建設部と環境部とで、すりあわせが行われているということなのか。どうしても建設部がやると緑被率というような点が重視され、中身の部分まで議論されにくいという側面がある。樹種や緑化といったところについては、県内部の横のつながりで何か話し合われているとか、そういった機会はあるのかどうか。今回、まだ答えられないようであれば、そういった中身の部分を県建設部と協議いただきたい。

その他、24番（指定希少野生動植物種の指定）の17種指定の数値目標に関し、ある程度リストアップしてありその中で、まだ指定されていない希少種が6種あるということか。

【事務局】

まず緑の基本計画については現時点では進捗していないため、課題と認識している。希少野生動植物種は、現在、専門家検討会でリストアップし、現地調査や地権者と調整を進めている。

【委員】

承知した。その他、31番（生物多様性地域戦略を策定する県内市町村数）に今年度セミナーを開くとあるが、県としてどのような進捗があったのか教えてほしい。

【事務局】

現時点では、積極的な市町村を具体的に把握出来ていないのが現状である。

【委員】

これは数値目標であって義務付けではないということか。

【事務局】

法律上、策定義務の規定はなく、努力規定とされる中で、戦略における数値目標を全市町村として掲げている。

【委員】

では、その目標達成に向けた働きかけの内容を聞かせていただきたい。

【事務局】

まず、各市町村における生物多様性保全にかかる意識の向上を図るために、各地域の生態系ネットワーク協議会に市町村が参加し、生物多様性保全の取組の意義を理解いただくことをベースとして啓発を続けたい。

【委員】

先ほど事務局から、9月28日にセミナーを開催し、ガイドブックを作る予定があると説明があった。それを啓発活動としてとらえてよいのか。

【事務局】

その通り。更に市町村から個別の相談に乗る体制を作って取り組む。

【委員】

セミナーを開催したうえで、更なる働きかけを県にお願いしたい。

【委員】

数値目標の進捗状況で、達成出来ている項目もあれば31番（生物多様性地域戦略を策定する県内市町村数）や9番（県営都市公園における生物多様性保全・再生・創出に向けた計画の作成）等、実績が低い項目がある。最終的に達成出来ない懸念もあるが、2020年に向け、数値目標が達成するよう何を検討しているのか聞かせてほしい。

【事務局】

31番についてはセミナーの開催自体が初めてで、同時にヒアリングも始める。9番については県建設部と意見交換をする。

【委員】

この戦略は非常に期待しているところであるが、数値目標に対し中間年を過ぎた現時点で、個々の目標が達成できていない要因の分析・整理が出来ていないと思う。現時点で達成が困難と思われる項目の数値目標に対し、過去の成果を活かしながら、県はどのような対策を考えているのか。

【事務局】

県の課題は他部局との連携。今後はその点を押さえて検討を進めていきたい。

【委員】

県環境部マターの話ではなく、生物多様性国家戦略に基づいて推進しているのであり、こうしたより上位の計画を示しながら、県環境部が他部局と検討を進めるほうが良い。例えば、公園緑地の関係でもCBI（City Biodiversity Index）が国際的な議論となって、都市の生物多様性指標の評価の基準になろうとしている中で、国交省本省も真剣に取り組んでいる。

(2)「生態系ネットワーク協議会」について

【事務局】

(資料2、参考資料2～3により説明)

【委員】

西三河NW協議会においては、今までいろいろやってきたが、特にトヨタ自動車柵堤工場がモデルとなって取組が進んでいる。また矢作川等、川のビオトープ化の取組も進んでいる。

問題は県のモチベーションが高い一方で、市町村のモチベーションは下がっている。また多くの企業は異動があるため担当者が変わることも課題。そこで、ビオトープの拠点をマップ化すれば、足りない部分（位置）が明確になる。そこが公共の土地であれば市町村に取組を依頼し、民間の土地は県が助成するなどして進めていけるマッピング作りをお願いしたい。

【委員】

有識者として現地調査に行かれた方、ミティゲーション検討委員会の方から何か意見はあるか。知多半島NW協議会はいかがか。

【委員】

課題は山積しているが、知多半島NW協議会の参加企業は取組に協力的である。予算が足りないということではなく、県からの意見を踏まえて活動する事で取組が活発となる環境にある。ただ公有地のネットワーク作りが進んでいないことが課題である。

(3) 「あいちミティゲーション」について

【事務局】

(資料3、参考資料3～6により説明)

【委員】

ミティゲーションバンキングの概念は拡がりつつあるが、具体的な効果が明示されてこなかった。しかし日本で初めて実施することであり、簡単に実現は出来ないと思うが、取り組む価値があるため、このバンキング検討チームの取組を充実させていきたい。一方、県への要望としては、バンキング検討チームを発足することに加え、このような活動に関心のある経済界等へ普及啓発を行い、経済界からの相談に乗れるような雰囲気を作って欲しい。

【委員】

何か意見はあるか。

【委員】

- ① 日本のバンクはボランティア型で行う仕組みを踏まえ、バンキングに誘導することが重要。
- ② 企業の森と行政による自然の保全・復元活動等がバラバラであることから、地域が連携しつつ、議論のポイントを押さえていくなど、戦略的に実施する必要がある。
以上の2つのポイントを踏まえ、ボランティア型の里山バンクを推進するという検討になると思っている。

(4) 「あいち生物多様性戦略 2020」数値目標の改訂について

【事務局】

(資料4により説明)

【委員】

何か質問、意見はないか。

(特になし)

(5) 平成28年度あいち生物多様性戦略2020推進委員会の開催予定について

【事務局】

(資料5により説明)

【委員】

バンキング検討チームは非常に重要だが、H28.9～H29.3に3回程度の検討会開催という理解で大丈夫か。

【事務局】

まず、田中委員に検討チームの中心になっていただきたい。また諸外国の代償制度の調査を進める。この調査結果の報告を受け、日本で受け入れられる方策を議論していただきたい。

加えて、点数化手法は参考資料7の「海上の森のギフチョウ保全計画の概要」にあるように、里山の手入れを行い、ギフチョウの生息空間としての価値の向上を図る。それを題材としてどのように点数化が出来るのか考えていただきたい。

【委員】

「バンキング検討チーム」は「ミティゲーション検討会」から独立して、3回の検討会を別途開催するという意味か。

【事務局】

その通りである。開催後、「ミティゲーション検討会」に報告いただく予定。

【委員】

田中委員、松本委員、近藤委員は重要な役割をやっていただくことになるが、田中委員の意見はどうか。

【委員】

短期間で盛りだくさんという印象はあるが、かなり素材は揃っている。それに対し、県がどのように考えていくのかも、ポイントになると考えている。

【事務局】

今年度でやることは課題の洗い出しを考えており、来年度以降、課題に対する対応策を検討し、仕組み作りを進めることを目標としている。

【委員】

海外調査の結果はいつ頃わかるのか。

【事務局】

9月～10月の第1回バンキング検討会で示したい。

【委員】

「あいち方式」としてやるからには、専門家委員だけが汗をかくのではなく、各NW協議会や経済団体等からヒアリングし、同時に普及啓発をすることにより相互の対話を深め、愛知だからこそ実現出来るような対応の仕方を考えていただきたい。

【委員】

現地視察の時期が1月を予定しているが、この時期とした理由を教えて欲しい。

【事務局】

海上の森の活動団体等から1月が生物に対する影響が一番少ないという意見を踏まえ予定した。この時期が適当なのかという疑問が挙がっているので、具体的な日程は改めて調整させていただきたい。

【委員】

承知した。

【委員】

生態系NW協議会成果発表会の開催にあたっては、単に成果を報告し合うだけでなく、このメンバーが参加して、活動をどう総括し評価することが大事なのではないか。

涌井副委員長もおっしゃっていたが、進んできているミティゲーションがすたれないように、あくまでも「あいち方式」のミティゲーションであること、それをサポートする「あいち方式」のバンキングであるという概念を押さえて進めてもらいたい。

【委員】

戦略目標を達成するために、この成果発表会を委員が総括し、残り5年の課題を議論する必要がある。

また、ミティゲーションと生態系ネットワークはセットであると考え。そのことと生態系NWの成果を判りやすい形で常に県民へ発信することが重要である。

4. その他

【事務局】

資料6及び資料7に基づき「生物多様性地域戦略策定セミナー等の開催」及び「愛知目標達成に向けた国際先進広域自治体連合協働事業」についての連絡があった。

【委員】

本日の議題の総括をすると、①数値目標未達成の要因分析と対策、②生態系ネットワークは9協議会となり、各NW協議会の中で取組を進めていく中で、課題やメリットの共有化を図る、③ミティゲーションは各取組でバラバラにやってきたことが、日本型のバンキングというシステムを介すことによって統一した形で対応し進める。これは愛知県が全国で初めて実施するということを踏まえつつ検討していく、ということによろしいか。

5. 閉会

事務局から閉会のあいさつと次回の連絡。

今回は現地視察を予定しており、後日日程調整をする。